

宇都宮支局 〒320-0822 宇都宮市河原町1-4 電話 028-638-4311 Fax 028-638-8300
 小山支局 〒323-0807 小山市城東1-7-30 電話 0285-22-0855 Fax 0285-23-1556
 日光支局 〒321-1266 日光市中央町1-6 電話 0288-21-2434 Fax 0288-21-4413
 足利通信部 0284-41-2969 栃木通信部 0282-22-1150 佐野通信部 0283-22-1111
 真岡通信部 0285-82-2672 大田原通信部 0287-22-2115 那須塩原通信部 0287-62-2829

購読、配達
 北部販売会 028-638-6300 Fax 028-636-0550 南部販売会 0285-30-2343 Fax 0285-21-4341
 関連会社
 広告 028-635-1261 折込 028-612-2015 旅行 028-624-8181 文化センター 028-636-1818
 栃木よみうり編集部 028-638-5200 栃木南部よみうりタイムス編集部 0283-85-8743

メールは utsunomiya@yomiuri.com

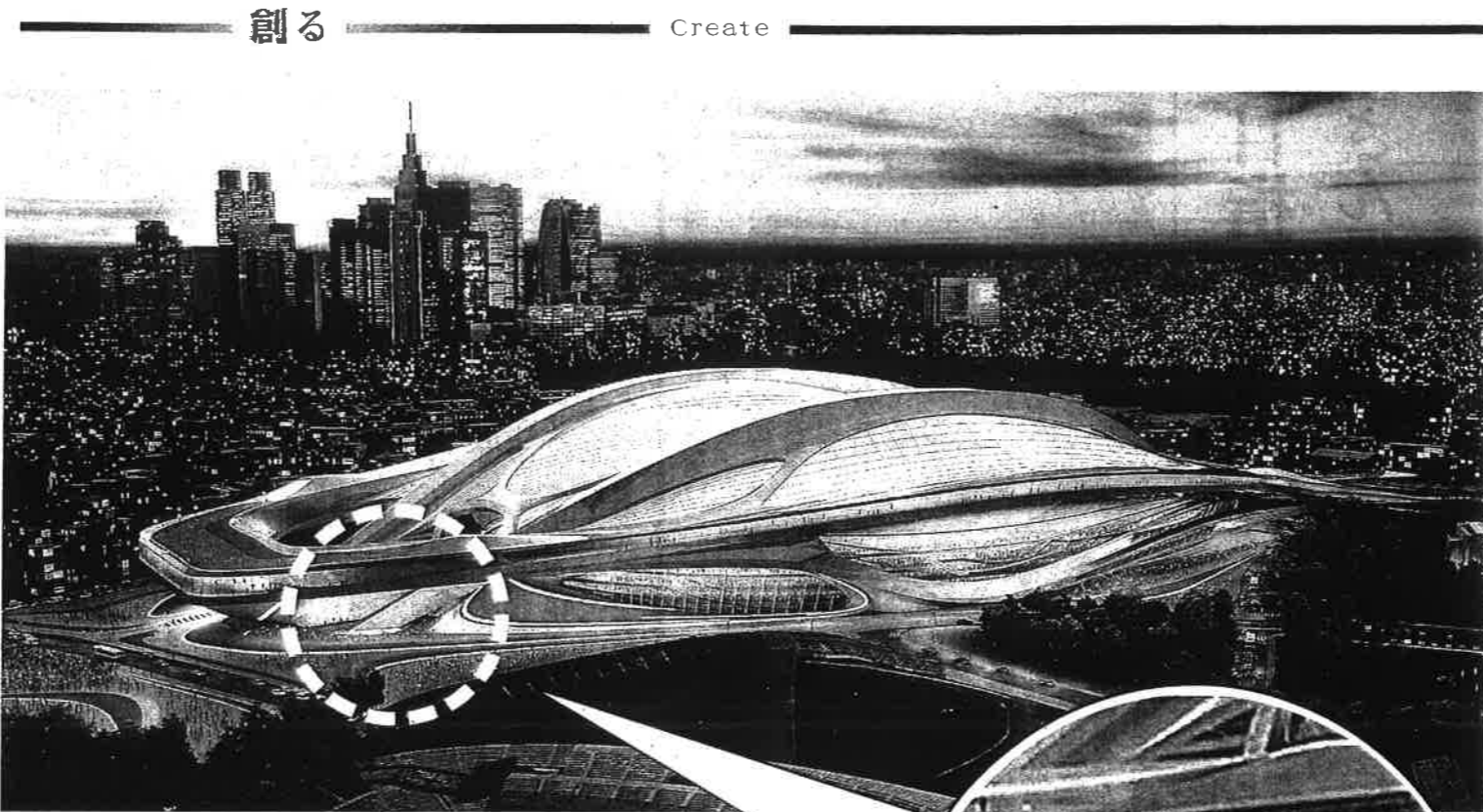
第3回



32 きょうの栃木版から
 32 大田原 お笑いPR
 (写真はU字工事の益子卓郎さん)

32 定時制・通信制 体験発表会
 33 SC 存続へ街頭募金
 33 後期高齢者 保険料上げ
 34 イサム・ノグチの高松市
 37 謎の画家・森温理作品展
 37 おくやみ

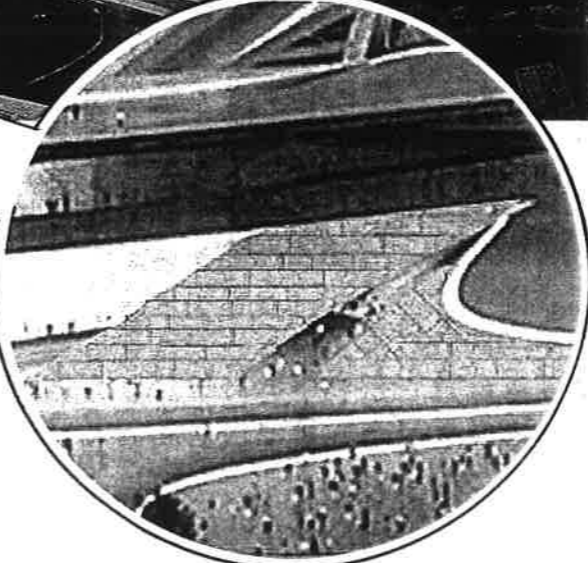
小山郵便局南 (小山市城東一丁目)
 小山皮ふ科 日祝・木曜休診
 院長 藤平 正利 ☎0285-1317-214



大谷石 ルネサンス
 東京の国立競技場に先月24日、大谷石の生産と販売を手掛ける「大谷石産業」(宇都宮市)の飯村淳・営業部長(左)が出向いた。スタジアム内を視察して確信の表情を深め、面会した施設の管理担当者(右)に冊子を手渡した。
 「新国立競技場等東京五輪施設への栃木県産石材『大谷石』の活用」。改修に向け大谷石を売り込む営業提案書だった。
 1958年に完成した現在

新国立競技場に売り込み

の国立競技場には、玄関脇や客席、回廊などの壁面に、実によくの大谷石があしらわれている。提案書はそれを強調し、アピールした。
 「流線形の斬新な新競技場に、柔らかな温かみのある大谷石は間違いなく効果的。新旧の競技場史をつなぐ国産材でもあり、ぜひ活用を」。今後は提案を具体化させた。数多くの巨大施設が建設される五輪は、我々にとって大きなチャンス」と、メインスタジアム以外でも積極的に営業をかけるつもりだ。
 2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムになる新競技場。飯村さんの生産地も、苦境に立たされて久しい。



●公表された新国立競技場の設計案(日本スポーツ振興センター提供)と、●大谷石の活用イメージ(大谷石産業提供)

放射性セシウム よく吸着する
 大谷石は、放射性セシウムを吸着する多孔質の鉱石「ゼオライト」を豊富に含む天然資源だ。福島第一原発事故による汚染に、石を砕いた粉末を役立てる方法も模索されている。
 県農政課は、「並行して試したカリウムの方が作物の除染には有効と分かり、現在はそちらを農家に推奨している」と話す。
 一方、茨城大理学部の大橋朗准教授(化学)は、「作物への効果としては、水に溶けない大谷石の粉よりも、水性があって浸透しやすいカリウムが上回るのには当然として、使い方次第では汚染の拡大抑止などに有効だと提唱する。大橋准教授らの研究チームは、セシウムを水溶液に大谷石の粉末を混ぜる実験を繰り返した。その結果、わずか10分の大谷石粉末にセシウム150がつかうことが分かった。12

茨城大チーム 大谷石粉末で実験

年1月には、「放射性セシウムは大谷石によく吸着する」との実験結果を発表した。研究チームは、汚染水・物質の処理や除染に大谷石が活用可能だと唱える。例えば、汚染された泥や焼却灰、落ち葉などを埋め立てて、大谷石粉末を敷き詰めれば、地下水の安全性を保つことができる。など活用事例をあげている。水戸市内の環境測定業者は、これを実用化した放射性廃棄物の小型貯蔵庫の普及を目指している。
 大橋准教授は「東日本大震災で大量発生した大谷石の粉れきを使えば、費用も安上がり」とも提案した。



大谷石産業の採石場敷地内で、事業内容を説明する飯村さん(2009年撮影)。石材を1日に1500本は掘り出す(9月、宇都宮市の大谷地区)

需要の減少

業者らで作る大谷石材協同組合によると、大谷地区全体の出荷量は1973年にピークの89万トに達し、採掘業者数は109、従業員数も1765人。これに対し、昨年の出荷量は1万6900ト、業者数は10、従業員数は108人。ブロック崩や建物の基礎作りは全国各地の需要があったかつてと異なり、より強度のあるコンクリートや安価な外国産建材に少しずつ取って代わられたためだ。「特に平成以降、石が大きな塊で売れなくなって出荷量が減った」。組合は肩を落とす。
 行政も衰退に歯止めをかけた。宇都宮市は、2010年度から大谷石利用促進補助制度を

業界の命運

そんな中であって、五輪をビジネスチャンスと受け止めて動き出した大谷石産業。東京にも事務所を置いて企画や営業部門に力を入れてきた強みを生かし、これまででもレストランチェーンやブティックなど幅広い分野に販路を広げてきた。3年前には地下採石場を新設し、常に6人がフル稼働する。飯村さんは「今年はお荷物も伸びている」と攻めの姿勢を貫く。
 宇都宮市産業政策課は「この成長が、他社に刺激を与え、全体を引っ張り上げてくれる」と期待をかける。東京五輪を契機に大谷石が再び脚光を浴びることができると、業界の命運がかかる。(込山駿)